

CONTENTS

自作自演173 石川正子・恒川和久・畠山成好・村林 桂 2

最終回 これからの都市計画とまちづくりを考える
環境の変化に対応するしなやかさ 村山顕人 4

第3回 木とながくつきあう
木材の劣化 石山央樹 6

JIA静岡発 第1回JIA塾 花沢の里・古民家にて広葉樹の話聞く..... 八木紀彰 8

JIA愛知発 住宅研究会 講演会 アサダワタルさんを囲んで 竹中アシュ 9

JIA岐阜発 「JIAの窓」学生、一般の建築家とともにまちづくり討論...長尾英樹・寺下 浩 10

JIA三重発 建材研修会 耐力面材モイスTMの特徴と有効活用 ...西出 章 11

第20回JIA 東海学生卒業設計コンクール2013
20周年記念座談会「卒業設計を問う」 加古 斉 12

金賞・銀賞受賞者の声 戸谷奈貴・鈴木理咲子・福田晃司 14

保存情報 142 旧糟谷邸 塚本隆典 16
堀川の五条橋 福田一豊 16

理事会レポート 小田義彦 17

東海支部役員会報告 塚本隆典 18

東海とっておきガイド⑤⑧ 静岡編 鈴木幸治 19

地域会だより 19

愛知地域会 法人協力会員について 19

「ARCHITECT」第300号発刊記念① ...吉元 学・神谷勇雄・生津康広・田中英彦 20

残暑見舞い広告 22

Bulletin Board 23

法人協力会通信⑧ YKK AP(株)中部支社 岩田兼由 24

編集後記 牧 秀明・谷口 元 24

映画の中の建築 ⑥

伊根の舟屋



フーテンの寅さんが亡くなって、盆と正月がさみしくなった。寅さんシリーズの中で好きなのは第29作(1982年、山田洋次脚本・監督)「男はつらいよ〜寅次郎あじさいの恋」だ。いつも女に惚れて振られるのが定番の寅さんだが、この映画では女から想いを寄せられる。

京都の高名な陶芸家(先代の片岡仁左衛門が実によく味を出している!)の家で知り合ったかがり(いしだあゆみ)に会いに、寅さんは彼女の丹後の実家を訪れる。その晩、離れの2階に酔いさましの水を持って女はコト、コトと階段を上がっていく。寅さんが手を伸ばせば胸に飛び込んでくるのが観客にも分かり固唾を飲んで見守るが、寅さんにはできない。なぜなら彼女を本当に幸せにしてやる自信がないからだ。

日本の古い諺に「据え膳食わぬは男の恥」とあるが、山田洋次は日本の古い本当の男の美学を見せてくれる。この場面に欠かせないのが、日本海の暗い曇天、海鳴り、そして舟屋の集落だ。

寅さんとかがりはその後、鎌倉のあじさい寺で再会する。恋を終わらせるためにはもう一つダメ押しが必要なのだ。丹後から鎌倉へ、この色彩の切り返し、その後味を爽快なものにしている。

光崎敏正 | 愛知地域会





石川 正子 (JIA静岡)

針谷建築事務所 (静岡市駿河区小黒3-6-9 TEL 054-281-1155 FAX 054-282-5502)

京都の魅力

静岡から京都まで新幹線で1時間40分。意外に近い!

私が京都に足を運ぶきっかけとなったのは、3年前、大学時代の親友が京都に転勤したことでした。もともと木造建築に興味がありましたが、その頃仕事でも伝統的な木造建築にかかわる機会もあり、縁を感じてしまいました。

私が感じる京都の魅力は歴史と木造建築、季節感です。同じ神社、寺でも季節によって違う顔を持ち、何回でも足を運びたくなくなってしまいます。しかし、私はそれ以上に京都には何か違う魅力があるのではないかと思います。いろいろな人と話をすると知らないことがまだまだ多く、興味が高まるにつれて、この季節のこの場所に行ってみたい、と行きたいところが増える一方です。

京都のもう一つの魅力は、変わらない風景と変わる街並みが一つの都市に混在するという点です。新しいものと昔ながらのものが融合し、訪れるたびに新しい発見があります。

年4回訪れていた京都も、今年親友が東京に戻ってしまったことで、訪れる回数は少なくなりましたが、新しい京都と季節の変化を楽しみに足を運び続けたいと思います。次は、今年の秋に行きたいと考えています。

左 | 春の平等院 中 | 夏の宵山
右 | 冬の上賀茂神社



恒川 和久 (JIA愛知)

名古屋大学 (名古屋市千種区不老町 TEL 052-789-4398 FAX 052-789-2045)

ヴァナキュラーな価値を見通す

このところ、公共建築のことを考え、見る機会が増えています。人口が減少し財政難に陥っている自治体にとって、高度成長期以降大量に建てられたものの、持ちきれなくなった公共建築のスリム化を図らなければならないことは明らかです。でも、経済性の原理によって、公共建築の抑制が語られることには違和感を覚えます。

昔のお殿様や地主は、領地で最良の場所を知っていました。公共建築はそうした場所に建てられることも多かったでしょうし、そうでなくても長い年月をかけてコミュニティの中心を担う場に育った質の高い公共建築も多いでしょう。でも残念ながら、首を傾げたくなる立地や質の建築もたくさんあるのです。長年、政治家・行政や設計者・施工者が「ハコをつくる」ことに専心して、「場を生み出す」ことを疎かにした結果と言わざるを得ません。地域の人々に愛される建築になり得ないから、廃止の議論の俎上に簡単に上がってしまいます。

哲学者のイヴァン・イリイチは、近代的な「脱施設」を唱えるとともに、貨幣価値に換算できないヴァナキュラーな経済文化の重要性を訴えています。自治体というヴァナキュラーな組織がつくるモノやサービスさえ、貨幣価値に換算してしか測ることができなくなってしまうたら、古き良き日本人の価値観はさらにずたずたです。これを打破できるのは、立地や空間やサービスやコミュニティを見る目と創意工夫です。それらをすべて見通せる唯一の職種と私が信じている建築家が果たせる役割は少なくないはずで



畠山 成好 (JIA 愛知)

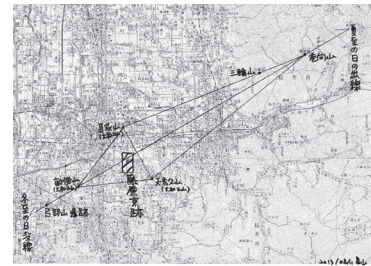
畠山都市建築事務所 (名古屋市北区志賀本通1-21 エムズフラッツ3C TEL/FAX 052-912-7031)

委員会活動のススメと古代ロマン—大和三山ピラミッド説のご紹介

JIAに入会して今年で11年目、最初の6年間は推薦人のススメもあり会員委員会に所属し、主に会員名簿の管理や委員会配属、暑気払いの企画・運営などに携わりました。その後、知人のススメで研修委員会に所属、委員会がほとんど毎月開かれるのには驚きましたが、構造セミナーなどの企画・運営に携わりました。現在は研修事業室を担当。ここでも各委員会がほとんど毎月開かれており、皆様の積極的活動に感心しきり、ほど良い刺激を受けています。仕事で忙しい中、委員会活動を続けるのは大変ですが、人と人とのつながりや達成感があるからこそできるのかもしれない。

以前から、委員会に出席される方は固定的で少ない傾向です。今、JIA愛知で全員参加型の市民に向かって発信する外向きの企画が動き始めています。これまで委員会活動に積極的でなかった方も、この機会にぜひ参加されてはどうでしょうか。

ところで、私の実家のある奈良県橿原市に大和三山 (畝傍山・天香久山・耳成山) という不思議な山があります。地図上で山頂を結ぶと二等辺三角形をなしていて、畝傍山から底辺に向かって下ろした垂線上に巻向山・藤原京跡地・忌部山遺跡が並びます。大和三山は平地にぽっかり浮かぶ島のような山々ですので人工的につくったかのようにも見えます。私自身は、大学の卒業設計のテーマの一つに大和三山を選んでから興味を抱き、忘れかけた頃に「大和三山ピラミッド説」として雑誌やインターネットでも取り上げられて、その思いを新たにしました。科学的根拠はありませんが、古代ロマンとして付近の遺跡を回りがてら、軸線を意識して大和三山巡りをするのもいいかもしれませんね。



村林 桂 (JIA 三重)

村林桂建築設計事務所 (松阪市西町2474 TEL 0598-30-6336 FAX 0598-30-6337)

山登りのすゝめ

数年前から山登りを楽しんでいる。山好きの施主の話に誘惑されたのがきっかけで、とりあえず近所の山に登り始めた。最初の頃は800m程度の山でも汗だくになり息を切らしながらひたすら山頂を目指して黙々と登った。頂上にたどり着いたときの達成感と爽快感は言葉にならない。ビールで喉を潤しながら眼下を俯瞰すると、三重の海岸線から伊勢湾越しに知多半島まで一望できる。足元には自宅のある松阪市街の様子が手に取るように見える。こうして下界を見下ろしていると、日常の慌ただしい生活や社会の営みが大自然の中のほんの些細な事柄に思え、気持ちが澄んでくるから不思議だ。

今年に入ってから伊吹山、立山、木曾駒ヶ岳と日本百名山と呼ばれている山々に挑戦した。標高3000mの景色は別格だ。空気が薄く気温が低い。森林限界を超えると高山植物と岩石だけの世界になる。7月でも残雪に覆われた場所があり、澄んだ空気を通して見る雪渓は地上の景色とは思えないほど美しい。

どこの山も登山者で賑わっているが、60～70代の高齢者が多いことに驚く。しかも健脚で、またたく間に追い越されてしまうほど皆元気だ。立山の山小屋で出会った老人は、百名山をすべて登ったという。皆さんも一度試してみてください。自分も百名山制覇を目指して80歳までがんばるぞ！

効能：体力増強、腰痛解消、心身健康、気分爽快

木曾駒ヶ岳山頂を目指して登る



これからの
都市計画と
まちづくりを
考える ⑥

村山 顕人
— 名古屋大学大学院環境学研究所 准教授

環境の変化に対応するしなやかさ

都市とまちを取り巻く環境の変化

生産年齢人口減少、高齢者激増、経済停滞、格差社会の顕在化、財政難、環境問題（気候変化、エネルギー、食糧、水の問題を含む）の深刻化といった進行性リスク（緩やかな環境変化）に適応しながら、巨大地震の到来という突発性リスク（急激な環境変化）に備え、持続可能な安全安心社会を実現することがこれからの都市計画とまちづくりの大きな目標です。この目標は、安全性、保健性、利便性、快適性といった生活の質の向上や経済的合理性を伴わなければ、社会を構成する多様な主体の理解・納得・共感を得ることができず達成できません。また、都市計画やまちづくりをしなやかに進めなければ、この大きな仕事に前向きに取り組むこともできません。最終回の本稿では、都市計画・まちづくりの仕事において環境の変化に対応するしなやかさを獲得していく際のヒントとなりそうな考え方やエピソードを紹介します。

制度としての都市計画、 運動としてのまちづくり

「都市計画」と「まちづくり」の定義はさまざまですが、最近の教科書²⁾には、「都市計画：国家における、政府による、統一的連続的な、環境形成制度」、「まちづくり：地域における、市民による、自律的継続的な、環境改善運動」という定義があります。名古屋市の都市マスタープランに盛り込まれた「地域まちづくり

の推進」は、地域のまちづくりを支援し、その成果の一部を都市マスタープランに盛り込み、都市計画の方針を実現したり、方針をより良い方向に修正したりすることを目論んだものです。実はここには、制度としての都市計画が環境の変化に対してしなやかに応えていないため、運動としてのまちづくりに期待を寄せているという背景があります。

このことを5月にドイツのドレスデン（写真1）で開催された気候変動への地域の対応に関する国際会議で話したところ、フォーマルな都市計画を重視する国の参加者は首を傾げ、都市計画があまりうまく進んでいない国で仕事をしている参加者は共感してくれました。主催者であるライブニッツ生態都市・地域開発研究所（写真2）所長のBernhard Müller教授は、総括コメントで、「気候変動適応プログラム・施策の実現においては、フォーマルな道具（柔軟性はないが強力な計画・規制など）とインフォーマルな道具（柔軟性はあるが必ずしも強力ではないアクション・オリエンテッドな取り組み、さまざまな形での調査研究成果の提示等）を上手に組み合わせる必要がある」と述べました。「都市計画からまちづくりへ」ではなく、都市計画とまちづくりの両方の発展と両者のインターフェースの設計が重要だと認識しました。

理論と実践、研究と実務

3月に、オランダのアムステルダムから約30km東に位置するアルメレ市を訪問する機



写真1 | ライブニッツ生態都市・地域開発研究所があるドレスデン市の中心部



写真2 | 筆者が滞在した同研究所の客員研究員室



写真3 | 自動車を排除したアルメレ市中心部



写真4 | アルメレ市役所 Smedes氏ほかとの情報・意見交換



写真5 | 大垣市子育て世代に選ばれる都市戦略会議の様子

会がありました。同市は、1970年代後半に開発が始まった現在人口約20万人の新都市で、シンプルかつ興味深いデザインの建物と徹底的な歩行者・自転車・バス・自動車の動線分離に感心しました。子育て世代がベビーカーを遠慮なく押せ、お年寄りがシニアカーを乗り回せるこの環境(写真3)は、超高齢社会を迎える日本の既成市街地で何とか実現したいことの1つです。アルメレ市役所の30代の交通デザイナー Harmen-Otto Smedes氏によるプレゼンテーションは、大学の都市計画の講義のようにハードやコルビジェの思想、ローマクラブの提言、ブキャナンレポートの解説

から始まり、その後、こうした理論に基づく実践とその評価に関する内容が続きました(写真4)。オランダの新都市なので理論と実践が結びつきやすいのですが、行政のプランナーやデザイナーが、理論に基づく揺るぎない方針をもって実務に携わっている姿勢は羨ましく思いました。東海地方でも多くの実務家(行政職員やコンサルタント)が研究者と接点を持ってきていることは心強く思います。先のMüller教授は、「まだまだ学術(science)と実践(practice)の間に大きなギャップがあるので両者のインターフェースに関する研究を進める必要がある」とも述べていました。

子どものための都市環境、多世代のために

Project for Public Spaces[®]のfacebookに配信された「子どもたちのために都市をつくれば、それはみんなにとってうまくいく(If you build a city for children, it works for everyone)」というフレーズは、6月にストックホルムで開催された公共空間に関する国際会議の発表から引用されたものです。「子育て日本一」を目指す水の都・岐阜県大垣市では、2009年度より、市役所内各課、各種団体、筆者の研究室のメンバーで構成されるシンクタンク「都市みらい戦略会議」(2013年度から「子育て世代に選ばれる都市戦略会議」)を設置し、研究活動を展開しています(写真5)。これは、将来策定する法定計画の中核となり得る都市戦略を検討すると同時に、検討に参加する30～40代の若手メンバーの政策立案能力を高めることを目的としています。今年度は、各種団体と一般公募の参加者を増やし、(財)地域総合整備財団の補助金も頂き、産官学民連携で「子育て世代に選ばれる都市戦略」(より具体的には、小さな産官学民連携プロジェクト、大垣駅南街区市街地再開発事業周辺地域の空間モデル案、シティプロモーションの展開)に取り組みます。子育て世代(および子どもたち)の視点から都市環境を評価し、その改善を検討するもので、結果的に、多世代の人々の生活の質の向上につながると思います。同時に、しなや

かに産官学民連携の取り組みを展開する雰囲気ができつつあることを実感しています。

おわりに

日本の都市とまち、そこで暮らす私たちが置かれている環境は大きく変化し、また、その不確実性も高くなってきています。従来の方では対応できない悩ましい環境変化ばかりですが、Müller教授の言葉を借りれば、不確実性は機会と捉えるべきであり、実はこれまでもプランニングは不確実性の下で進めてきたのです。この機会を無駄にしないためにも、環境の変化を的確に捉え、都市計画とまちづくり、理論と実践(研究と実務)、子どもからお年寄りまでのバランスを取りながら、しなやかに都市計画やまちづくりを進めたいところです。(了)

■補注

- 1) 柔軟、臨機応変、粘り強い、やわらかい、したたか、クール、自然体といった意味
- 2) 伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉編著(2011)『都市計画とまちづくりがわかる本』彰国社
- 3) 公共空間に関する計画・デザイン・教育NPO



むらやま・あきと | 名古屋大学大学院環境学研究所都市環境学専攻・准教授(工学部環境土木・建築学科/減災連携研究センター兼務)。1977年生まれ。2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。東京大学国際都市再生研究センター特任研究員を経て、2006年10月から名古屋大学に在籍。専門は都市計画・まちづくり。2004年日本都市計画学会論文奨励賞受賞。共著に『世界のSSD100:都市持続再生のツボ』(彰国社)、『都市のデザインマネジメント:アメリカの都市を再編する新しい公共体』(学芸出版社)など



木材の劣化

石山 央樹・中部大学工学部建築学科 講師



これまでに、木材を使用した納まり、特に水分の滞留に着目したディテールの紹介を通して、木となかくつきあうことについて問題提起をするとともに、木材の重要な性質である、木材と水分との関係および膨潤・収縮のメカニズムについて解説をした。今回は、木材の特徴の中でも劣化に関する事項をおさらいしたい。

木材は何からできているのか

木材の主要成分はセルロース、ヘミセルロース、リグニンであり、これら3成分が木材の90%以上を占めている。

【セルロース： $(C_6H_{10}O_5)_n$ 】 いわば木材の骨格とも言える成分であり、約50%を占める。セルロースはグルコース（ブドウ糖）が多数結合した高分子で、木材の繊維（厳密に言えば、木材の細胞壁を構成する繊維であるマイクロフィブリル）を構成している。

【ヘミセルロース： $(C_5H_8O_4)_n$ 、 $(C_6H_{12}O_6)_n$ など】 セルロースとともに木材の繊維を構成する成分で、「セルロース以外の糖」を指す。木材の約20～30%を占める。

【リグニン：化学式は図1参照】 セルロース、ヘミセルロースからなる木材の繊維を強固に結びつけるとともに、細胞壁どうしも固定化する、いわば接着剤のような役割を果たしている。木材の約20～30%を占める。

ここで、それぞれの成分の化学式をいま一度見直していただきたい。お気づきのよう、木材はそのほとんどが炭素（C）、酸素（O）、水素（H）で構成されている。植物の光合成を思い出していただくとうかのように、樹木は空気中の二酸化炭素（ CO_2 ）と土中の水分（ H_2O ）を太陽からの光エネルギーを利用して、自らの体-細胞壁-セルロース、ヘミセルロース、リグニンを作っているのである（図2）。「木は何でできているのか-樹木の生育に必要なものは何か」という問いに対し、「土中の水分と養分である」と答える向きが少なくないが、これでは片手落ちである。細胞壁の構成には二酸化炭素由来の炭素（C）が不可欠であるし、養分-リン（P）や窒素（N）などは細胞の生命活動には必要であるものの、細胞壁の構成材料にはならない。

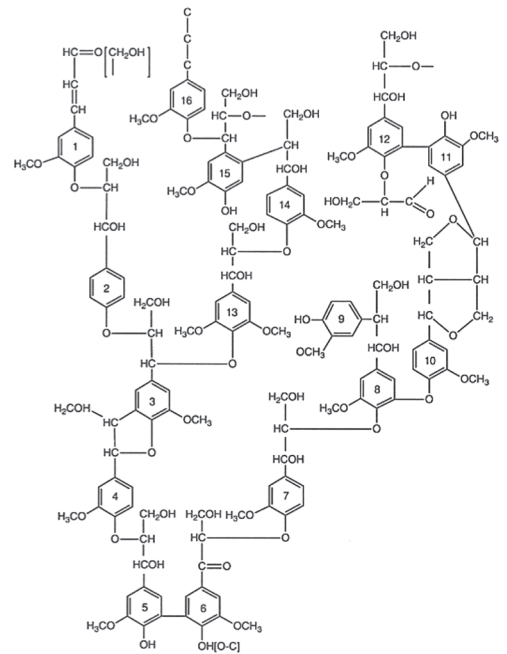


図1 リグニンの近似的模式図の例（*1）

木材の劣化

木材の主な劣化として、紫外線劣化、熱劣化、摩耗、凍結融解などの「物理劣化」と、腐朽やシロアリ等による食害などの「生物劣化」が挙げられる。特に生物劣化は木材に特有で、かつ大きな被害となることがあるので、そのメカニズムを知ることが重要であろう。

先に述べたように、木材は太陽エネルギーを利用して二酸化炭素と水を有機物に再構成したものである。言い換えれば、その構成物質内にはエネルギーが蓄えられているということである。特にセルロースはブドウ糖が多数結合した物質なので、そこからエネルギーが得られるだろうということは容易に想像できるだろう。ただし、残念ながら人間はセルロースを分解する酵素を持ち合わせていないので、直接摂取してエネルギーとすることはできない。これを可能にしているのがシロアリや腐朽菌である。シロアリはその体内に有する酵素や細菌によってセルロースを分解、変化させ、エネルギーとして利用していると言われている。また、腐朽菌はセルロース、ヘミセルロース、リグニンに作用する酵素を分泌してそれらを分解、低分子化し、エネルギーとして利用している。なお、セルロースやヘミセルロースなどの多糖類が分解されて褐色であるリ

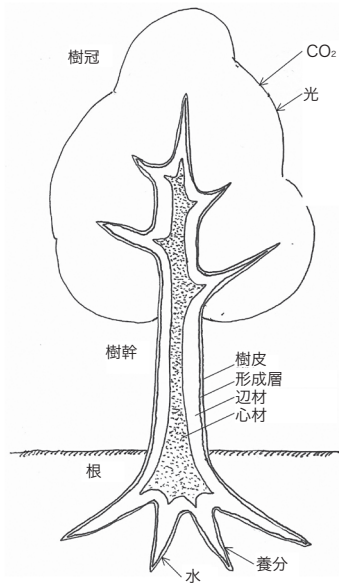


図2 樹木の生育に必要なもの

グニンが残り、全体として褐色を呈するものを褐色腐朽、リグニンも分解されて全体として白色を呈するものを白色腐朽と呼ぶ。褐色腐朽はセルロースが分解されるので指で押しつぶすと粉状になり、白色腐朽は繊維状になる。

少々話は脱線するが、この、植物に蓄えられたエネルギーの利用は昔から行われている。直接燃焼させてエネルギーを得る薪や炭、化石燃料となった木材である石炭、最近ではバイオマス発電やバイオエタノールなどの取り組みである。特にバイオマスやバイオエタノールはカーボンニュートラルな材料(*2)として注目されている。

耐久性設計と木材保存方法

木材に生物劣化をもたらす主なものはシロアリと腐朽菌である。これらの生育条件、すなわち木材が生物劣化する条件は、前回述べた通り、①栄養 (=木材)、②適度な温度 (=人間の活動温度域と重なる)、③酸素 (人間の生命活動にも必要)、④水分である。すなわち、木造住宅における劣化軽減対策のうち、最もプリミティブな方法が「木質部材を水分の攻撃から遠ざけること」である。この「水分の攻撃」の主なもの、雨水、生活水、結露水、床下高湿度環境からの水分である。すなわち、雨水を滞留



図3 シロアリ食害

図4 木材腐朽

させない、あるいは雨水を侵入させない雨仕舞、生活水に対する水仕舞、壁体内部結露を発生させない断熱気密構成、床下通気などが必要である。

これら水分に対する対策を講じた上で、フェールセーフ機構として木材保存剤の利用がある。防腐剤は、木材腐朽菌の細胞膜を破壊したり、酵素阻害をすることによってその効力を発現する。かつてはCCA (クロム・銅・ヒ素化合物系) が多く使用されてきたが、その毒性から現在はほとんど使用されなくなり、代わりに、ACQ (銅・アルキルアンモニウム化合物系)、AAC (アルキルアンモニウム化合物)、CUAZ (銅・ホウ素・アゾール化合物系) などが使用されている。防虫 (防蟻) 剤は、害虫に対し、中毒症状、神経系の麻痺、呼吸器の停止などを起こさせるものや、忌避効果があるものなどがある。従来は土壌処理や木部処理で効果を発現していたが、近年では、遅効性を持たせたベイト剤 (毒餌剤) によってコロニー (シロアリの巣) ごと絶滅させることを狙った、維持管理型のベイト工法などが開発されている。また、化学的防蟻ではなく、シロアリが通り抜けることのできない大きさのメッシュを利用した物理的防蟻方法なども開発されている。余談ではあるが、古く沖縄で行われていた、潮干 (スーカン: 用材を砂浜に埋めておく処理で、防虫効果が高まると言われている) もフェールセーフ的な対策の一つであったのだろう。

一次バリアとしての水分対策、二次バリアとしての木材保存剤利用、さらには維持管理方法を、個々の建築条件に合わせて適用し、木とながつきあうためのよりよい方法を選択したいものである。



木材は死んでいる

前回に引き続いてやや硬い内容となったが、木材の生物劣化とその予防方法に関し、根本的な部分からご理解いただけたであろうか。

やや夢を壊すような言い方になるが、木材は死んでいる。樹幹の中で生きている部分は形成層のみであり、木材となる部分は生命活動を終えた細胞の集合体である。植物は一度根をおろすと、そこから自ら移動することはできない。生命活動を行うにはエネルギーが必要であり、移動できないという限られたエネルギー環境下では、形成層という最小限の部分のみに生命活動をさせ、そのほかの部分は樹幹の維持のみさせるという仕組みは合理的なのである。

木とながつきあう方法を考える上では、すでに生命活動を終えている木材に対し、これらを長く健全な状態に保つ環境は人間が提供してやらなければならない、ということに常に意識しておくことが重要であろう。

- *1 城代進ほか: 木材科学講座4 化学, 海青社, 1993
- *2 バイオマスやバイオエタノールは燃焼すると二酸化炭素を排出するが、これに含まれる炭素は大気中の二酸化炭素由来であるため、大気中の二酸化炭素を増加させない。この性質をカーボンニュートラルと呼ぶ。ただし、現在の技術ではバイオエタノールの精製には他のエネルギーを投入する必要があるため、厳密に言えば完全にカーボンニュートラルとは言えない。石油や石炭などの化石燃料に含まれる炭素も大気中の二酸化炭素由来であると言われるが、これらが取り込まれたのは遠い過去であり、現在のみについて考えた場合は大気中の二酸化炭素を増加させているので、カーボンニュートラルとは言わない。



いしやま・ひろき | 1975年静岡生まれ。1998年東京大学工学部建築学科卒業、2000年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程終了。同年住友林業株式会社入社。2009年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。2010年より九州大学非常勤講師、2012年より中部大学講師。専門は木質構造、木質材料、耐久性、建築構法。博士 (工学)、技術士 (建設部門)、一級建築士

●今回は 11 月号掲載です。

花沢の里・古民家にて広葉樹の話聞く

6月19日(水)、焼津市の花沢の里にて第1回JIA塾が開かれました。会場は株式会社山王静岡支店常務取締役、石黒久雄さんのご自宅です。同社は、創立以来70年近い歴史を広葉樹と共に歩んできた木材専門業者であり、特に北米産広葉樹の取り扱い高においては日本有数の輸入業者でもあります。石黒さんが改装して住んでいる古民家をご厚意で見学させていただきながら、広葉樹の話聞かせていただきました。

花沢の里は、奈良時代「焼津辺に 我行きしかば 駿河なる 阿部の市道に 逢いし 児らはも」(春日蔵首老)と万葉集にも詠まれた、最古の東海道「やきつべの小径」の途中にある30戸ほどの集落です。当日はあいにくの雨模様でしたが、緑豊かな山間の谷に古民家が建ち並び、石垣や横羽目押縁下見板張りの外壁が坂道に沿って連なる様は、沢の音と一体となった風情豊かな雰囲気をつくり出していました。

縁あってこの家を譲り受けた石黒さんは、改装する際に前の所有者に図面を逐一ファクスで送り、どのように変わったかを報告していたそうです。所有に関係なくいつまでもお互いこの建物を大事にし、近くのお寺に墓参りに来る際は自分

の家のような気持ちで立ち寄って下さい、という思いからでした。古民家の受け継がれ方の大切な部分に触れたような気がしました。

広葉樹のお話では、①国産広葉樹(北海道産広葉樹)の半世紀前から現在への流れ、②広葉樹の適材適所の使用、③国内資源の背景からアメリカ産広葉樹に移行した経緯、について同社の歩みと共に話していただきました。

戦後外貨の乏しかった日本は、手っ取り早い原料ビジネスとして国産広葉樹を欧米に大量に輸出。特に北海道産のミズナラは世界最高品質として評価され、イギリスやデンマーク、ベルギーなどで棺桶用に高額で取引されていました。その一方で、貴重な国内資源の流出(北海道の山は全て国有林か道有林)を危惧した道庁の担当者が、国内消費拡大を目指しプロモーション活動に動き始めます。経済成長と共に普及したテレビの外枠用にブナが大量に売れ、エレキギターのボディにセン、オーディオボックスにクルミが用いられるなど販路は拡大。何より無垢材の婚礼家具が大量に売れていきました。

しかし当時の伐採方法は、落札した山の木を根こそぎ伐り倒す皆伐でしたの



花沢の里

で、山はたちまち丸裸に。元来、人工植林ができず自然植林に任せるしかない広葉樹は再生するまで200年から300年かかります。建材も含め拡大した需要に対し、とても安定供給できる状況ではなくなり、国産広葉樹の利用は次第に衰退していきました。

そんな中で、広大な森林面積を持ち人工乾燥設備が整ったアメリカ産広葉樹が注目され始めます。特にアメリカの森林はほとんどが民有林であり、代々継承する財産としての意識が高いため皆伐はしていません。択伐を続けることで持続可能な森林経営を行っている点が大きな魅力となり、同社の取り扱い高が増えることとなりました。

木材資源の持続可能性への関心が国際的にも高まる中、わが国でも2000年のG8九州・沖縄サミットでの合意に基づき、2006年のグリーン購入法改訂施行を経て合法木材の調達整備が進んでいますが、まだまだ一般消費者の認知度は低いのが現状です。今回のお話を聞き、経済活動の観点においても持続可能な環境保全を行うことの大切さを痛感しました。いつの日か、世界最高品質の国産広葉樹が復活することを願っています。



山王倉庫



石黒久雄さん

八木紀彰 |
八木紀彰建築設計事務所



アサダワタルさんを囲んで

7月10日夜、名古屋市北区の「尼ヶ坂サロン」で行われたアサダワタルさんの講演会に出席しました。今回は住宅研究会の一員として企画にかかわりもし、二重の意味で会場を見ることとなりました。

企画で重要なのは、その内容とか会場のこととかあると思うのですが、今回いろいろやってみて、その中でもいかに集客するかが要になるように思いました。講演の内容がいかに良くともお客さんには会場に足を運んでいただかなければなりません。お金もいただきますし、当然それに見合った内容のものを提供しなければ次がありません。会場の広さとその場の雰囲気に見合った客数も求められます。そんな状況がまとまったとしても告知をしっかりとしないと、欲しい人のところに情報が行き渡らないわけで、少ない予算の中でそれらをどうするかがまず話題となりました。結果、集客はネットに特化することとしました。告知にはビラやDMもありますが、そうするとお金も人手もかかります。話し合いの中で今時そんなんじゃないよ的な空気もあって、ネットを特に活用していこうとなりました。

早速、facebookで専用のページを立ち上げて多くの人に参加を呼びかけました。一方で会員の方々や知人にメールをしたりもしましたが、結果、参加者の半数程度の方がfacebookで集まったこととなりました。多少の労力は必要だけど効果はあったかなと思います。SNSが万能というわけではないと思いますが、こうした方法がこれからさらに幅を広げていくものと思います。人に来ていただきやすくするための改善点は見受けられましたし、のびしろもあります。JIAが公益社団法人となった今、

左 | 「尼ヶ坂サロン」の夏の名物カキ氷を前にしたアサダさん
右 | 満員となった会場



さらにこれらの方法を活用して、より多くの人に有益な情報を提供できるようになっていけばと思います。

講演会は、そのようにしてどこか客観視しようと思う面が自分にはあったのですが、あまりに自然体なアサダワタルさんにそれはあっさりと崩されました。会場にいられてコンニチハといって名刺交換させていただきます。事編(コトアミ)日常編集家と書かれています。ドラマ担当とも書かれています。ほかにも非常勤講師とか広報アドバイザーとか。いろいろやってるんだなあこの人。長めの髪の毛はいくらかメッシュが入っていました。いでたちはスニーカーにTシャツに半袖シャツを羽織ったそこらにいそうなラフな兄ちゃん。滋賀からですかあ。名古屋はどうですかと尋ねたところ、すでに何回か来ているとのこと。そんなに遠くないですよ。あいちトリエンナーレ2013の参加アーティストでもあります。活躍してるなあ。なのに全然イヤミを感じさせない。何者なんだろうこの人?と思ったものでした。

お客さんも集まってきて僕はふたたび会場の係に戻ります。入場の受付を住研の皆さんと一緒にやっていました。来ていただけた方一人ひとり、とてもありがたく思

いました。その一方で、当日ドタキャンされる方もいらっしゃるもので、このあたりは今後対策を考えなきゃ…なところでした。

しばらくしてアサダさんの講演が始まりました。写真から分かるでしょうか?

普通だったらスクリーンの近くに演者がいるものですが、今回はアサダさんを囲むようにして皆がバラバラと座ってます。即興で会場をこしらえたので意図したわけではなかったんですけど、偶然にもアサダさんの雰囲気とマッチしたものでした。

話は2部構成で、前半はアサダさんのモノローグ、後半は会場のオーナーである今枝和仁さんとのクロストーク。会場は甲斐あって大いに盛り上がりまくったものでした。

アサダさんの言う「住み開き」は読んで字のごとく、プライベートな空間をオープンに使うこと。まさに今の時代の空気を読み取ってこれから活用できる方法なのではないかなと思います。詳しくはアサダさんの本を買って読んでくださいね♪ひと通りを聞き終えて、同じことはできないかもしれないけど自分でも何かやってみたいと思ったりしたものでした。

竹中アシュ |
竹中設計事務所アシュ



学生、一般の建築家とともにまちづくり討論

●今回の「JIAの窓」は今年初めての開催となりました。6月21日（金）18時より洋風居酒屋COAにて、「地域のまちづくりについての討論会」をテーマに座談会形式で開催されました。参加者は学生さんが5名、会員以外の建築家7名、会員4名の16名でした。まちづくりにかかわれるのは新鮮だという意見が多かったのは学生さんたちです。自分の地元のまちがシャッター街化しているのがとても気になるという意見でした。

建築家サイドの意見は、以下のとおりです。

- ・シャッター街の発掘、市場性づくり、商売を考え直すべきである。
- ・建築家の仕事に繋がらなくても、まずはボランティアで動くことが大切である。
- ・人と人を繋げることがとても大切になってくる。
- ・そこに住む人の事を精一杯考えてあげることが原点。建築家は思いやる心の容量を大きくしておくべき。人としての器づくりから始めても良いのでは？
- ・行政と向き合うのは大切なことだが、補助金をアテにしたまちづくりは好ましくない。
- ・地域の環境にマッチングしたことを考えることが大切である。
- ・その地域の方々と膝を突き合わせるような対応で、建築家独特の[^]上から目線、は避けるべきである。
- ・建築家が一生懸命になると、つい住民主体であることを忘れて、建築家の個性が出てきて、住民がやりづらくなってしまふ。それだけは避けたい（空気の読めない建築家はダメ）。
- ・住んでいる人から厳選した人と一緒に

まちづくりをすべきである。

- ・まちづくりは建築家のエゴが出てはならない。建築家は裏方に徹するべきである。
- ・シャッター街を立て直すような事業は、建築家とは違う職種であるようだが、建築家の中の職種を増やしていけば良いだけである。建築家のこだわりを捨てることから始まることもあるかもしれない。
- ・郊外のまちづくりは、意外と何もしなくても、成り行きに任せても良いかもしれない。
- ・岐阜市などの城下町の街並み保存＝まちづくりという考え方も良いと思われる。
- ・文化的レベルを上げることも、まちづくり事業で大切なことだと思う。

以上が意見を抜粋して集約したのになります。まちづくり事業に積極的なご意見が多かったので、岐阜での本格的な地域まちづくり事業の一步を踏み出したことがすごく良かったと思います。

また、それと同時に、このような忌憚のない意見が出たということは、JIA会員と一般建築家の間の垣根が下がって一緒に活動しやすくなってきたということであり、JIAの今後の活動において勇気づけられる、とても有意義な会であったと感じました。

長尾英樹 | Meef's設計工房
JIA 岐阜地域会会長



●今回の「JIAの窓」は若手、中堅、ベテラン建築家と幅広い層が参加、「まちづくり」を手掛ける建築家の事例紹介もあり、



「JIAの窓」の様子

意見交換が活発で大変盛況でした。また建築を学ぶ学生たちが参加したことで、世代間による考え方・価値観の違いが見られ、大変貴重な会だったと思います。

まちづくりの意見交換会は第1回目ということもあり、話の内容はさまざまな方向に拡散しましたが、主として建築家の立場からまちづくりに貢献できることは何か、どのようなアプローチがあるのかという点を中心に話し合いが持たれました。

一例として潜在的に魅力ある地域の発見、価値ある建築の保存・活用についての提案・情報発信を行うことにより、地域の活性化に貢献できるのではないかと意見が挙げられました。歴史的町並みの保存・修復の活動などは全国各地で行われており、地域活性化に一定の効果をもたらしています。まちにかかわる手法としては地域にアプローチしやすく、住民の方々と一緒になって活動していくこともできます。また歴史遺産を活用することは過去のストックを有効利用することであり、コスト的メリットも大きいと思われれます。

その他魅力的な意見・提案が幾つもありましたが、建築家ならではの視点を生かし継続的に地域のまちづくりにかかわっていくために、まずは地域にかかわるさまざまな立場の人たちにワークショップなどを通し意見をお聞きしていくと同時に地域のリサーチ活動を行った上で、JIA 岐阜地域会内での議論をしっかりと深めていく必要があると感じました。

寺下 浩 | smilo/寺下浩
一級建築士事務所



耐力面材モイス TM の特徴と有効活用

6月21日(金)。第2回例会に先立ち、建材研修会を行った。今回の建材研修会は三重地域会法人協会会員である三菱マテリアル建材(株)、上倉元氏により、「耐力面材モイスTMの特徴と有効活用」というテーマでお話を伺った。

まず、モイスとは何かというと、「天然素材『土壁・木』を進化させた理想の建材」というキャッチフレーズをもった調湿建材である。調湿建材とは、室内の湿度を調整することのできる建材であり、(一社)日本建材・住宅設備産業協会では、一定以上の性能を有する製品には「調湿建材認定マーク」を表示している。当然、モイスもこのマークを取得している。調湿建材の中でも、モイスは天然素材の鉱物「パーミキュライト」を主成分とし、ほかに消石灰、けい砂、パルプを原料とした天然素材のみでつくられているため、最終的には土に還すことができる素材である。主成分のパーミキュライトとは、蛭石を粉砕して高温で加熱したもの。空隙がたくさんあり、水分や肥料の保持ができるため、園芸用の改良用土にも利用されている。ちなみに、モイスの語源は「モイスター・Moisture」(湿り・水分・潤い)だそう。

そのほかの特徴としては、次のようなものがある。

①地震に強い：在来木造大壁仕様の面材耐力壁で壁倍率最大3.8の認定を取得。…壁倍率の高い面材は耐震構面数を少なくでき、空間の自由度を広げられるであろう。

②火に強い：国土交通大臣認定の不燃材。耐力面材の中では唯一の不燃材(最近まではこの建材だけであったが、最近もう1社不燃認定を取ったらしい)。…火に強い建材は、使用部位に法規的な制限を受けないため、使用頻度が高まる。

③カビが生えにくい：無機質材なのでカビが繁殖するための養分がない。カビは弱酸性を好むが、モイスはアルカリ性である。…人が生活する空間には呼気などによる湿気がつきまとう。カビが生えにくいのはありがたい。

④結露を防止：透湿性があるので壁内部の湿気が外部に排出される。…普段目に見えない壁内結露は心配の元。その心配をしなくて良いのは助かる。

⑤防蟻処理不要：無機材料で構成されているためシロアリの好む成分を含まない。…シロアリ被害は、部屋内でシロアリの確認した時点で手遅れである。

⑥気密性が高く省エネ効果：石膏ボードの1000倍の気密性あり。

⑦遮音性が高い：石膏ボード2枚分に相当。

⑧肥料として再利用：現場で出た端材は回収して、けい酸だけを取り出し、肥料にも再利用されている。

以上のような特徴があるため、モイスは現場で出た切れ端を適当に粉砕して床下に敷いておけば、調湿効果が満点だとか。専用の袋に入れられ、床下一面にそれらが並べられている建築現場のスライドを見せていただいた。多大な量の袋が並べられていたので、新品のモイスも粉砕して袋につめたのか?と質問したら、この現場で出た廃材だけであり、これ以上入らない分は廃棄処分したと言われた。リサイクルできるから良いものの、建築端材を極力少なくできるシステムを考へることもこれからの建築生産には必要かと、変なところに食い付いてしまった。このことに関して、モイスは廃材を廃材にしないのは非常に良いことだと思う。

このように非常に魅力的な建材であるので、皆さんも一度資料を請求してみればいかがだろうか。

今のところ、耐力壁建材として使用できるのは、新築に限るとのことであった。耐震補強が叫ばれている昨今、補強壁としての面材要素の認定が取れば、利用頻度が非常に増えると思った。なぜなら耐震補強後の条件の一つに、補強した箇所は二度と腐朽させないという項目がある。補強した部位が腐れば、せっかくの耐震補強した性能が発揮できないからだ。腐朽しない材料を耐震要素に使うことができるのであれば、耐震性能の持続性を担保するのに非常に魅力的な材料だと感じた。



モイスの主成分



研修会場の様子



西出 章 | 森永建築設計事務所

20周年記念座談会 「卒業設計を問う」

卒業設計コンクールも今年で20周年を迎えた。今ではJIA本部で全国レベルのコンクールを連動して行うようになったが、日本の各地方で開催される同様のコンクールの中で、東海地方のこのコンクールは最も長い歴史を有するもので、開催当初にかかわられた先輩建築家の御苦労と先見性を評したい。

20周年という節目に、「少し卒業設計を振り返って問うてみたい」と委員会で意見がまとまり、いつもの審査委員長の講演スタイルに代えて今回は、過去の受賞者と審査員全員の座談会形式で「卒業設計を話し合う場」をつくってみようと企画が始まった。

出席者は審査委員長で早稲田大学教授の古谷誠章氏、審査員でJIA会員の鈴木幸治氏、廣瀬高保氏、植野収氏、山田高志氏、川口亜稀子氏と、2005年銀賞受賞者で現在佐藤総合計画東京事務所に勤めてい

る皆川貴弘氏、2008年銀賞受賞者で現在山下設計中部事務所に勤めている酒井千草氏、2009年銀賞受賞者で現在竹中工務店大阪本店に勤めている金澤潤氏の3名の参加を加えて合計9名となった。

6月1日(土)、名古屋都市センターにて白熱した公開審査終了後(審査結果は「ARCHITECT」8月号掲載)、座談会が、総合司会の田中英彦氏の案内の下、卒業設計コンクール特別委員会委員長の吉川法人氏の概略説明と出席者の紹介から始まった。

まずは過去の受賞者から、現況と自身の卒業設計に関して一言ずつ、それぞれにプレゼンテーションしてもらった。

コーディネーターの古谷先生は出席者の会社名を見て「このコンクールで銀賞を取られた方は有名な企業に皆さん就職されるのですね!」とコメントされたが、

大手企業以外のアトリエ事務所に就職された受賞者の方の参加もあれば良かったと私は思った。

最初に、名古屋大学卒業後、佐藤総合計画東京事務所に勤められている皆川貴弘氏の、京都・嵯峨野に竹の複合施設を計画した卒業設計についてのプレゼンテーションが始まった。観光地と住宅地を、竹材工場を中心に竹を立てかけて緩やかに繋げていく複合施設の提案で、建物からランドスケープ、そして竹藪の風景へとつながる計画の説明の後、入社8年目の現況の話として、幼稚園や博物館、科学館、小学校などの仕事をしています、と説明があった。

次に、現在山下設計に勤められている酒井千草氏のプレゼンテーションも卒業設計から始まった。2008年の卒業設計でテーマにしたのは、全国に多くある旗竿敷地における企画化住宅の計画である。名古屋市千種区のすべての旗竿敷地を拾い出し調べてみると、8つのパターンが見つかった、8つのパターンの4方位それぞれの32パターンから計画されたそうで、道路から遠ざかったデメリットの敷地をメリットに変換するように考えられた。卒業設計の説明の後、近況のお話となり、現在は愛知県新城市と長野県のある市庁舎を担当しているとのこと。学生時代と違うところとして、発注者側の行政の方や市民の方など多くの方と積み上げてつくっていくところが難しくもあり、やりがいのあるところです、と締めくくられた。

3番目、現在竹中工務店大阪本店に勤められている金澤潤氏は2011年に入社され、最初の1年は研修で、4カ月は音楽ホー



審査員6名(手前)と、過去の入賞者3名が意見交換

ルの上にオフィスが載った建物の躯体工事を、その後の4カ月は社内コンペを、最後の4か月では見積もりを研修したそうだ。その後2012年から大阪本店に配属になり、現在施工監理を担当していると説明があった。卒業設計は、名古屋市の商店街の敷地で、塀で囲まれた敷地の塀を取り払い、敷地境界やテラスを共有することでそれぞれの住宅の新たなつながりを提案したということであった。

続いて、この日結果発表のあった学生たちの卒業設計について、それぞれコメントを語っていただいた。

皆川氏は、自分の経験から卒業設計のテーマを絞ってアウトプットするまでの体験が良い経験になっている、やり遂げた経験を今年の受賞者も大事にしてほしい、とコメントされた。

酒井氏は、課題設定に苦勞した経験談を話され、古谷先生が今年の卒業設計は爽やかな案ではなく、屈折した案が多い傾向にあると指摘されたのに対し、自分の案もどちらかというと屈折しているのによく理解できるとコメントされた。

金澤氏は、今回佳作になった案のうちの一つが自分と同じ商店街を取り扱っているが、自分が道を中心とした繋がりを取り上げたのに対して今回の学生案は商店街全体の開放系であり、真逆の案で興味を持った、また現在現場で毎日仮設を見る環境があるので金賞となった仮設を取り入れた案も興味がある、とコメントされた。名工大では卒業設計は研究室ごとに下級生が手伝いに入り、繋がっている部分があるという話であった。

審査員のコメントとしては以下のように話があった。

山田高志氏「3名の方は爽やかに仕事が好きそうに勤めていらっしゃるが、私は早く仕事を覚えて早く独立したい気持ちが大きかった。また卒業設計はすべて手作業の時代で今とは違う世界でした」。

植野収氏「時代を反映した課題をそれぞれが取り上げている。私の学生の時は都市計画の要素が入った時代だった」。

廣瀬高保氏「この卒業設計コンクールは8年ほど前、北山恒先生が審査委員長の際に、公開審査に変更された。東海の審査で佳作でも、全国で銀賞になることもある。審査員によって評価は変わる。価値観が多様にあることを学ぶのもいい勉強になる」。

川口亜稀子氏「去年は女性の入賞者が多かったが今年は一人。それぞれのエネルギーを感じる事ができた。卒業設計は大変なイベントではあるが、先生の意見や、後輩たちとの共同作業を通して一つのことを成し遂げることは実社会の仕事と共通する」「困難を乗り越えることが体験として就職後にも有効」。

鈴木幸治氏「絵が好きで建築を始めた。バウハウスのパウル・クレーの造形思考を卒論でやり、彼の絵に感動を受けて事務所名をバウハウスとNOWを混ぜて『ナウハウス』とした。当時は現在のような全国レベルのコンクールがなかったので、『新建築』のコンペに応募していた」。

古谷誠章氏「卒業設計では思ったことをすべてやったが、手伝いの後輩をうまく使えなかったこともあって早稲田で10番ぐらいだった。その後大学院時代新建



左から皆川さん、酒井さん、金澤さん

築のコンペでリベンジして世界で5人しかいない1等賞に入って自信を得た」「負けても次の良いきっかけになる」。

3名の方から卒業設計についてのアドバイスの際は、「早稲田や東大の公開プレゼンテーションに参加したことが良かった」「卒業設計は一つの体験として今に続く良い経験となっている」「プレゼンテーションに時間を取る事が重要だ」「公開審査に多く参加し、作品を読んで自分で評価し、審査員や提出者の評価と比較することもいい勉強になる」などのコメントがあった。

最後に古谷先生のまとめの一言で、酒井氏のプレゼンテーションの話を受けて、「プレゼンテーション、特に質疑応答ではサッカーのPK戦と同じくその場の判断力が試される。前日はきちんと寝て体調を整えることが重要」とコンペ戦略の手の内を話され、座談会は終了となった。



加古 齊 | 加古建築事務所

駅裏の魅力を増大する「足場」

金賞受賞 戸谷 奈貴 (名古屋工業大学 / 現在 同大学院)



◎はじめに

JIA東海学生卒業設計コンクールという大舞台でプレゼンテーションができたこと、そして金賞をいただいたことに喜びを感じております。ここでは、卒業設計で私が考えていたことや作品に対する想いなどを、できるだけ素直に、正直に、書きたいと思います。どうかご一読お願いします。

◎足場と駅裏

私の卒業設計をひとことで言えば「足場」です。名古屋駅の駅裏に足場を常設するという提案です。足場を使って駅裏を魅力的な街にできるのではないかと考え、足場の部品や組み方などを真面目に設計しました。足場と駅裏とでは、駅裏の方が先に私の頭の中にもありました。ですから、はじめから足場で何かをしたかったわけではありません。駅裏で何かをしたかったのです。

駅とは不思議なもので、駅前も駅裏も駅から同じ距離にあるにもかかわらず、線路で分けられることでその性格は全く別のものになります。駅前はいろいろなものが新しく、郊外に住む私にはとても刺激的です。しかし駅裏に来ると、駅前とのギャップに驚かされます。緑が少なく汚い街路、古くて安っぽいビル、いやらしい看板…。お世辞にもきれいとは言えませんが、そこに落ちたり染み付いたりギラついたりしているのは、人々の飾らない生活です。私はそこに安らぎのような懐かしさのような魅力があると感じました。そこで、この魅力を街いっばいに増大するための媒体として、足場を思いつきました。

ガラスの箱でも白い壁でも細い柱でも

なく、足場です。狼狽な風景をつくったり、いろいろな用途に対応したり、複雑な区画に合わせてするには、足場しか考えられません。低コストで、建物の補修もできたりする点も見逃せません。街に現れた足場空間は屋内と屋外の中間に位置し、屋内に閉じこもっていた生活や商業の空間を屋外へと出していくことで駅裏の魅力を増大させます。

◎作品の評価

私の設計はいわゆる「変化球」です。世間一般に言われる建物の設計はほとんどしていません。ほかの人たちの設計とは明らかに違うことは誰よりも感じていて、評価してもらえるのかどうか心配でした。しかし、大学の講評会や今回のコンクールでは共感してくださる方が多く、大いに評価されました。

一方で、多くのご指摘も受けました。特に造形に関する部分は未熟だったと自分でも思っています。できるだけリアリティを出したかったため、足場の部品や組み方が固くなってしまいました。もっと面白い造形ができたはずでした。

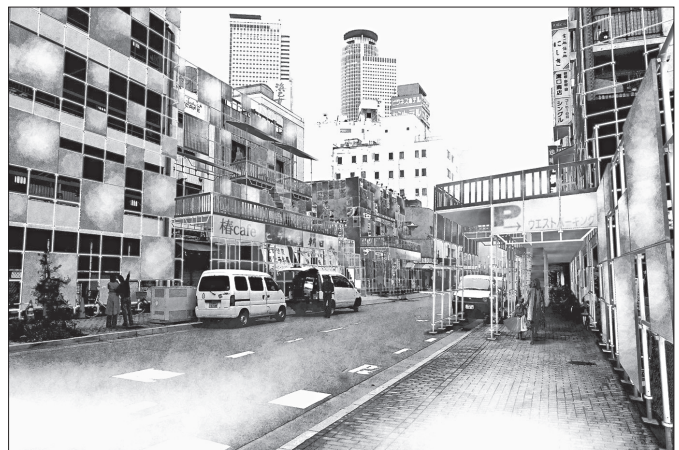
審査員長の古谷先生からは「変化」という点でご意見をいただきました。足場の特性として組み替えができることが挙げられます。この特性を生かして、時間とともに足場が変化することで街

が新陳代謝を行い、いずれは建物の中まで足場が侵入し、建物が足場になってしまうような、そんな未来を見据えたストーリーも描ける可能性を、私の作品の中に見出してくださいました。今後の設計において、未来にどのようなストーリーが描けるのかも十分に考えていきたいです。

◎おわりに

卒業設計では、多くの方々にアドバイスや応援の言葉を頂きました。大学の先生、先輩、同級生のみんな、後輩、家族…、本当にありがとうございました。このような素晴らしい結果を残すことができ、ホッとしております。そして、とても白熱した審査を繰り広げてくださった審査員の皆様、今回のコンクールを主催し、丁寧に展示や審査会をしてくださったJIA東海の皆様には心から感謝しています。

今後就職し、建設現場へ行って足場を見るたびに卒業設計を思い出すことになるでしょう。また、足場を見ると、ふと私の卒業設計を思い出してくださる人もいかもしれません。そうやって、いつまでも名駅ウエスタンがどこかで残り続けてくれたら、私は幸せ者です。



作品名「名駅ウエスタン 駅裏は足場をまとうー」

変わり続ける思考と卒業設計

銀賞受賞 鈴木理咲子 (椋山女学園大学 / 現在 東京藝術大学大学院)



卒業設計を考え始めて1年以上が過ぎ(私の大学では4年の4月から卒業設計に取り組むことができる)、まさかこんなにも長い時間、卒業設計にかかわることができるとは思ってもみませんでした。初めは頭の中でとらえきれないくらいだった思考や興味も、今となってみれば、ちっぽけに感じます。だから私は3月で卒業設計にきりがついたとき、自分の卒業設計が嫌いになりました。完成した瞬間は自分の今現在のすべてが詰まった自慢の卒業設計も、さまざまなコンクールでの講評や他人の卒業設計を見ることで後悔や矛盾があることに気づいてしまったのです。

しかし大事なものはそれからで、本コンクールでは思考が広がった自分だからこ

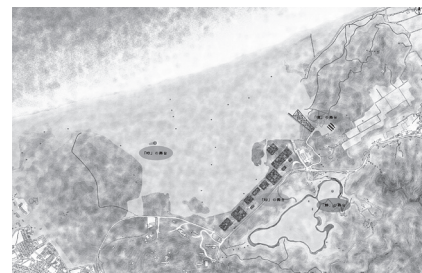
そ、この案を新しい視点や言葉で表現できると知りました。設計時は無我夢中で気づかなかった、もしくは忘れてしまっていた敷地の本質、自分が本当に興味を持っていたこと、感じたこと、伝えたかったこと。

審査委員長の古谷さんに「君は、鳥取砂丘が活着していると考えているところがいい」と言われた瞬間、自分の案の本質を思い出しました。私は鳥取砂丘という場所の本質、どんな要素でこの場所が成り立っているのかを知りたくて、砂丘を歩き回っていたのだと。そのときに砂丘は常にさまざまな要素を包み込み変わり続けていることを知りました。その砂の表面は本当に生命力がありました。

全国大会でもたくさんの意見や講評を

頂くことができました。そこでさらに広がった自分の思考から、また新しい言葉でこの案を表現することができそうです。卒業設計が永遠の課題になるということは、こういうことなのかと最近感じます。

最後に、かかわって下さったすべての皆様、本当にありがとうございました。



作品名「周遊する舞台～「学び」を取り入れた観光地としての新しい鳥取砂丘の提案～」

都市の観察、調査を形に

銀賞受賞 福田 晃司 (名古屋工業大学 / 現在 同大学院)



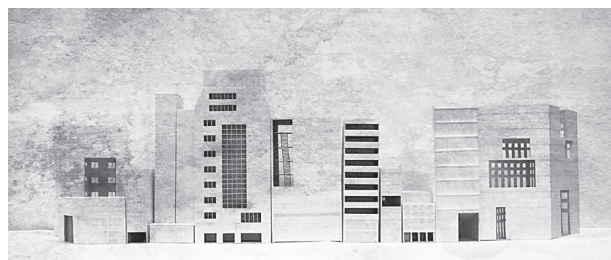
卒業設計では名古屋という都市についてひたすら考えた。いろいろな文献を見ていくと、名古屋はたびたび、無機質な都市として揶揄されていた。確かに、東京や大阪、京都などに比べると名古屋の都市はどこか特徴がなく、とりたてて名所もないということが感じられた。しかし、大学に入って次第に建築、都市に触れるようになってからは、どんな都市でも「観察」をすると徹視的にはさまざまな特徴が見られることが分かってきた。この素朴な発見を、どうにか建築化して人々に伝えたいということが卒業制作のテーマとなった。

まず、卒業設計に取り組むに当たって名古屋の栄から熱田の間を毎日ひたすら歩

いて、そして、名古屋の都市史を調べた。次に都市について書かれた本をひたすら読みあさった。そして、調査を続けていったが、提案する段階で手が止まってしまった。いろいろな発見があったのは良いが、目標がなく手探り手探りで調査をしていたので、それをまとめる段階になり、どうまとめ提案していけば良いのか分からなくなったからだ。その段階で随分と悩み、時間を浪費してしまった。しかし、そこで友人と話し合いをしたり、先輩に話を聞いてもらったりすることによって何とか形にま

とめることができた。

そうした苦難なプロセスを踏んだ結果、JIAのコンクールの銀賞という名誉ある賞を頂くことができた。まだまだ未完成な作品でこれからもこの作品について考え続けていきたいが、まずは審査員の方々、JIA関係者の方々、身の周りの人たちに深く感謝をしたい。



作品名「妖怪の建築の表出」

旧糟谷邸



主屋



茶室



長屋門



客に開放、保存のため、1億円で購入。総額約6千万円で3年かけて修理しました。14代目当主の縫右衛門さんが昭和56(1981)年8月、85歳で亡くなられ、「家屋敷を町のために使ってほしい」と遺言を残されたことが保存のきっかけになったとのこと。

■発掘者のコメント

愛知県内最古の木造建築物、国宝・金蓮寺弥陀堂の西約1kmに旧糟谷邸があります。ほどよい散策距離で、同じ敷地に吉良図書館と尾崎士郎記念館が併設されています。

『愛知県の近代和風建築』によれば、「旧糟谷縫右衛門家は、初代は室町後期にこの地に住み、江戸時代地主となり、米穀販売で財をなし、江戸末期には江戸へ搬出する三河木綿の総問屋を営み、名字帯刀を許された商家であった。大きな2階建ての主屋の回りを、長屋門、2棟の土蔵、屋敷神祠、庭園が取り囲み、県の指定文化財となっている。これらのほとんどは江戸中期以降に建設されている

が、主屋の西側に隣接する離れは、明治後期に貴賓の接待のために増築されたと考えられ、『お部屋』と茶室からなり、統一性のある数寄屋造りとなっている」とのこと。

茶室・庭園は表千家久田流、長屋門は糟谷家が御用達を務めていた大多喜藩小牧陣屋(吉良町小学校)から移築されたものといわれています。

土蔵は、戦前までは、約10棟が屋敷の北東から東側を取り囲むように立ち並んでおり、昭和20(1945)年の三河地震による被害や、戦後の事業撤退により現在は2棟を残すのみとなっています。

昭和57(1982)年旧吉良町が、町民や観光

所在地：西尾市吉良町萩原大道通18-1
 開館：9:00~17:00 月曜休館(祝日の場合は開館し火・水休)、祝日の翌平日、年末年始(12月29日から1月3日)休(※平成25年度)
 入館料：高校生以上 一人300円(中学生以下は無料) 団体割引(20人以上) 一人250円 ※旧糟谷邸、尾崎士郎記念館、書齋とを併せた金額
 交通：名鉄西尾線吉良吉田駅下車 徒歩20分(吉良図書館となり) 東名岡崎インターまたは首羽蒲郡インターから東へ約40分
 電話：0563-32-4646
 指定：愛知県の有形文化財(1985.7.21)
 参考資料：『愛知県の近代和風建築 愛知県近代和風建築総合調査報告書』(2007年 愛知県教育委員会)、中日新聞、中部読書新聞

塚本隆典 | 塚本建築設計事務所



堀川の五条橋



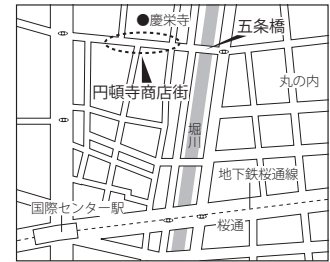
橋のスケッチ



擬宝珠のディテール



円頓寺商店街から見た五条橋



■発掘者のコメント

以前スケッチをしたことがある橋が、円頓寺商店街東側入口と丸の内を結ぶ堀川に架かる五条橋です。堀川は、慶長15(1610)年徳川家康の命により名古屋築城の資材の運搬や城下に暮らす人々の食糧、燃料などの生活物資を輸送するため名古屋城の西の堀留から熱田区まで開削された運河で、当時堀川には七つの橋(堀川七橋)^{(*)1}が架けられ、五条橋は最も上流に位置していました。創建当時は木造橋でしたが、現在は昭和13(1938)年に鉄筋コンクリート橋に付け替えられています。御影石の親柱、高欄、擬宝珠(ぎぼし)に木造の橋の意匠を残し、路面の割石張り舗装も、古

い時代の面影を残しています。名古屋開府に際し、清須の五条川に架けられていた橋を移築したことが名前のルーツとなっていますが、擬宝珠に「慶長15年」より古い「慶長7年任寅6月吉日」の銘があることがその根拠となっているようです^{(*)2}。

現在、擬宝珠はレプリカで本物は名古屋城に保存されていますが、江戸時代の絵図には四カ所、昭和初期の写真には六カ所、現在は十カ所と時代によって数が違い、歴史を検証することの難しさを実感します。

この橋の西北の袂の四間道の民家に見られる屋根神様が屋根でなく地上に遷座していることや、物資の流通を行う場所を指定した公

共物流場の遺構、今では五条橋にしか残されていない標柱など、興味は尽きません。

- *1 五条橋、中橋、納屋橋、伝馬橋、日置橋、古渡橋、尾頭橋
- *2 橋名が上島橋(うわばたばし)と複数の年代の古地図に記入されている。

所在地：名古屋市西区那古野1丁目および中区丸の内1丁目 地下鉄桜通線「国際センター駅」より徒歩8分

建設時期：昭和13(1938)年
 構造：鉄筋コンクリート造、三径間桁橋

参考資料：堀川沿革史、尾張名陽図会、名古屋市史地理編、愛知県の地名など
 名古屋市都市景観重要建築物

福田一豊 | 福田建築事務所



本部総会当日、臨時理事会も開催



本部理事 小田 義彦

■理事会

6月28日、公益社団法人移行後初めての本部総会直前の12：30～14：15の間、慌しく第213回理事会を開催。22名の理事（2名欠席）と2名の監事に加え、6名の次期役員（オブザーバー）と事務局2名が参加した。

【審議事項】

1) 入退会・資格喪失承認：（事務局浅尾さん）

新規入会5名、退会13名（うち東海2名）、休会9名が承認され、正会員総数4,339名となった。

2) 白紙委任状などの取り扱い：（筒井専務理事）

白紙委任は会長委任と見なし、議長委任は、可否同数の場合のみ議長の意向通りとすることを承認した。総会出席率は当日出席89名を含む出席者数は2,472名と、正会員数の57%となり総会は成立することが確認された。その後、総会の正副議長、議事録署名人および報告者とスケジュールが確認された。

【協議事項】

1) 支部規約について：（小田 規程類制定特別委員長）

全国10支部の支部規約について、修正すべき点を説明し確認した。すでに各支部とも総会で承認されているため、今年1年かけて使い勝手の悪いところを含め協議し、2014年春の支部総会で修正を承認した後、理事会に諮ることとした。

【報告事項】

1) 「JIA 建築家大会2013北海道」について：（上遠野北海道支部長）

正会員の参加動員目標総数は460名、東海支部は40名の参加が求められた。9月7日（土）の3つのエキスカージョンの紹介と、「5000人の建築家展」への参加呼びかけがあった。事務局より、旧終身正会員有資格者のリストアップを各支部から本部へ出してもらい、時間の余裕があれば北海道大会にて芦原会長名の感謝状を贈呈する予定。

2) 後援名義承認報告（会長専決事項）：（筒井専務理事）

5件の講習会などの後援事業を承認したことが報告された。

■臨時理事会

総会終了後の17：30～18：00までの間、臨時理事会を開催した。芦原会長はじめ22名の理事（2名欠席）と2名の監事が出席した。

【審議事項】

1) 専務理事および支部長選任の件：小田理事より、専務理事は筒井信也理事に、北陸支部長は近江美郎理事に、沖縄支部長は島田潤理事にお願いする、との提案があり、理事全員は異議なくこれを承認した。

2) その他 2013年度の理事会・理事懇談会の日時と参加形式（集合かWEB）が表記された一覧表が配布された。

第30回 JIA 東海支部設計競技・応募要綱

課題 「きのこのような家」（シリーズテーマ「風土」を見る）

●表現方法

- ・要求図面 大きさはA2判（420mm×594mm）1枚とする。
- ・図面には、氏名や暗号等目印となるものは記入しないこと。
- ・提案には、必ず居住空間を含むものとする。
- ・図面データ JPG形式（高解像度）またはPDF形式（高品位）

●応募資格

- <学生の部>大学、短大、高専、専修、専門学校、高校等の学生。
- <一般の部>制限はない。大学院生は一般。

●応募方法

専用の申込用紙に記入の上、図面とともに9月30日（月）17：00 に事務局に必着のこと。

●提出先・問合せ先

〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル5階

JIA 東海支部内 設計競技事務局 TEL：052-263-4636

●審査委員（順不同・敬称略） ◎ゲスト審査員 ○審査委員長

◎前田圭介（UID一級建築士事務所）、◎向口武志（名古屋市立大学）、謡口志保（ウタグチシホ建築アトリエ）、道家洋（道家洋建築設計事務所）、南川祐輝（南川祐輝建築事務所）、村林桂（村林桂建築設計事務所）、村松篤（村松篤設計事務所）

●審査会（公開審査）

2013年10月5日（土）10：00～

名古屋市立大学北千種キャンパス（名古屋市千種区北千種2-1-10）

●表彰式・作品展示・講評会・記念講演会

会場：名古屋大学（予定）

日時：2013年12月7日（土）※11月30日から変更になりました。

講演会定員：300名（先着順） 講師：前田圭介（建築家）

東海支部役員会報告

公益社団法人になって2回目の支部役員会で、内容も落ち着きを取り戻してきた感がありますが、建築家資格制度問題という大きな課題が浮き彫りにされてきたようです。また、石田会員増強委員長をトップに準会員の入会準備が着々と進められています。新会員制度の下、JIAの理念を引き継ぎ、新たに道筋をつけるべく活力ある人材の入会を期待します。



塚本隆典 | 塚本建築設計事務所

日時：2013年7月11日(木)16:00~18:00

場所：昭和ビル5階 JIA 東海支部会議室

出席者：支部長、本部理事、幹事11名、監査2名、オブザーバー5名

1. 支部長挨拶

2. 報告事項

(1) 本部報告

①-1 第213回理事会(本部総会前、旧理事による)(6/28)(小田)

①-2 臨時理事会(本部総会后、新理事による)(6/28)(小田)

※いずれも「理事会レポート」参照

②通常総会(6/28)(鳥居)

- 2013年度通常総会議案書の承認について報告。
- 芦原会長より公益保護の考え方の話があった。
- 建築家資格制度の将来像について、芦原会長よりUIA基準に至る社会制度経由ルート(建築士会と相乗り)とJIA正会員ルート、UIA基準と建築家資格制度について話があった。

③第3回 本部広報委員会(6/18)(江川)

- 2013年度の方針
 - 広報委員会ミッション：アーカイブスの管理は広報委員会から外れた。
- 会報誌「JIA マガジン」
 - パラダイムシフトは継続予定。
 - NPO法人建築家教育推進機構の新助成金制度(セミナーなどのDVDへの記録)を広報していく。
- メルマガ
 - 対外向けイベント情報メルマガは名称を「JIA 通信」とした。
- プロポーザル冊子：作成しない方向。
- 対外広報(メディア対応)
 - JIA賞は日本一の賞として発信できるのでは。
 - JIAは世界に発信できるソースを持っている。世界に向けて発信すべき。
 - 伊東豊雄氏が名誉会員となるのを機に芦原会長との対談をプレスに向け企画。
 - 新聞紙面に載ったJIAの名の入った関連記事は広報すべき。

④CPD評議会(7/3)(塚本)

1.プロバイダーおよびプログラム認定について。

⑤第124回 建築家資格制度委員会(植野)

- 「正会員ルート」について意見交換。
- 建設通信新聞掲載記事(別添7/4号)について。
- 委員会体制について(小田理事より追加説明)

(2) 支部報告

①東海学生卒業設計コンクール2013 全国審査結果(吉川)

②会員増強委員会(7/11)(石田)

- 準会員入会申込書について。
- 静岡地域会の準会員入会案内をたたき台として検討。
- 準会員の受付、入会承認、会費および口座、名簿管理などの検討。準会員の権利、義務については支部総務委員会と協議していく。

③支部CPD評議会(7/11)(塚本)

1.プログラム認定について。

④第30回 JIA 東海支部設計競技 募集案内。(水野)

(3) 各地域会からの報告

静岡地域会：第1回JIA塾開催(6/19)、第1回建築ウォッチング開催予定(8/8)

岐阜地域会：第1回JIAの窓開催(6/21)、JIA建築塾2013開催予定(7/13)

愛知地域会：あいちトリエンナーレ関連企画、「アサダワタル講演会@尼ヶ坂」開催(7/10)、新入会員ガイダンス、暑気払い(7/19)

三重地域会：建材研修会開催(6/21)、森羅万象匠塾開催予定(7/13)

3. その他

- 東北支部より「みやぎボイス」シンポジウム報告書20部贈呈。支援金協力をお願い。(鳥居)
- 前回役員会で協議のあった「ARCHITECT」への法人協力会員の広告の件は、引き続き各地域会で検討願いたい。(見寺)
- JIA東海住宅建築賞検討委員会 審査経過報告。(吉元)

4. 監査意見(中村)

卒業設計コンクールの一次審査で東海支部の最優秀作が落ちて佳作作品が通ることは起こり得ること。

議事

1. 審議事項 以下2件承認。

- 後援名義使用のお願い「まちづくりとひとづくり-名大建築50年」(11/9)(水野、服部)
- 暑中企画特集号広告協賛のお願い(日刊建設通信新聞社)(水野)



県指定文化財の域を超える、西楽寺本堂

真言宗智山派の寺で、平安後期に真言密教の拠点道場として栄えました。袋井市北部の春岡に、住宅の近隣調査中に発見。入母屋造り柿葺きの堂々たる阿弥陀堂が無造作にあることに驚き、この地の由緒をうかがい知りました。

外陣は朱色に彩色され、化粧垂木や組物、格天井が見事です。本尊は阿弥陀三尊、寺伝には開創は724年、聖武天皇の勅願所として行基が開山し、平安後期に右大臣源顕房が諸堂を造営したとあります。1543(天文12)年には学頭坊ほか12坊があり、今川・豊臣・徳川と、近世を通じて170石を維持されました。県指定文化財の本尊や薬師如来座像も平安後期の作です。平成の解体修理で現在の伽藍は享保(江戸中期)の頃の造営と分かりました。日本建築の醍醐味を身近に堪能できます。



西楽寺

もちがつお・うなぎ・浜松餃子

浜松のとっておきは、もちがつお。春の訪れとともに黒潮に乗って近海で捕れた鰹は鮮度がよく、つきたての餅のようにぶりぶり。爽やかな春風のような「もちがつお」は歯にまとわりつく食感が味です。

うなぎは「かんたろう」。関西風炭焼きで、表面のサクッとした歯触りからジュワッとした身から皮まで、旨味たっぷりの鰻と固めのご飯の一粒一粒、甘めのタレ、鰻重2,500円と、総合的なバランスがたまらん。

浜松餃子は「ビワの木」。小ぶりで皮が薄く、野菜がたっぷり。ニンニクが効き、美豚餃子といわれるほど豚肉にこだわっています。

鰹はリンゴ酸が効いた高知の酔鯨の純米吟醸、鰻はコクとキレの長野の瀧澤の特別純米、餃子は何でも、どれもよく冷えたお酒が欲しい!

うなぎ「かんたろう」：静岡県浜松市南区飯田町616-2 TEL 053-464-6323
浜松餃子「ビワの木」：静岡県浜松市中区新津町574 TEL 053-411-3388



地域会だより

<静岡>

- 8/7 建築文化研究会講演会第1回打合せに出席。
- 8/8 8月静岡地域会拡大役員会の開催。第1回建築ウォッチング(静岡ガス本社)。静岡ガス本社クッキングスタジオにて、簡単でできるつまみ料理教室と試食会+ワインの夕べ。
- 8/23 静岡県東海地震対策士業連絡会理事会。
- 9/17 9月静岡地域会役員会の開催。西部持出し役員会。JIA塾。

<愛知>

- 8/6 第25回 すまいる愛知住宅賞(第1次審査委員会)
- 8/8 「JIA・愛知賛助会」役員会
- 8/9 役員会(直前に幹部会)

- 8/12 あいちトリエンナーレ関連企画ミーティング4(研修事業室主体)
- 9/28 登録建築家特別講習会(芦原太郎会長、中村勉氏、大友彰氏の講演)

<岐阜>

- 7/13 JIA建築塾 13:00~15:30 場所:岐阜女子短期大学4階講義室
講師:宇野享(すすむ)氏 題目:思考の継続と深度

<三重>

- 8/9 建築士事務所協会 全国大会 三重大会への参画
『三重の建築散歩』ブース販売
- 9/20 第4回例会

■愛知地域会 法人協力会について

「ARCHITECT」7月号P24「協力会通信」において、組織としての説明が不足し申し訳ありませんでした。補足いたします。

東海支部 → 愛知地域会 → 法人協力会 以上がJIAとしての位置づけです。

上記「法人協力会」は旧「愛知地域会賛助会」からの移行を前提に、細則等をJIA愛知総務委員会にて検討中です。

新年懇親会・継続職能研修会(年2回)(CPD)・見学研修会(CPD)・懇親ゴルフコンペ(年2回)・JIA全国大会への参加・JIA愛知地域会暑気払いへの参加、JIA各事業への参加などは、賛助会(2012年度までの呼称)が行っています。(神谷勇雄/愛知法人協力会委員長)

ARCHITECT 第300号発刊記念①

1987年にJIA発足、翌1988年10月に「ARCHITECT」第1号創刊。以来25年、今月で第300号となりました。現在と直近の東海支部会報委員長・愛知地域会ブリテン委員長から編集責任者としての言葉をいただきました。

皆さん、歴史に 名を残そうではありませんか



吉元 学 | ワーク・キューブ・現委員長

早いもので東海支部会報・ブリテン委員長としての任期が1年を切りました。まだまだ馴れず、運営では委員の方や建築ジャーナルさんにご迷惑をおかけしています。青年委員会とは違い、会報・ブリテン委員会は若手からベテランまで幅広い世代の委員の方に出席いただいています。委員会の後の懇親会で先輩から貴重なお話をお聞きすることができるのが特徴であり、JIAの素晴らしさを象徴する委員会ではないでしょうか。頼りない委員長ですが、残りの任期で以下のことができればと考えています。

1. 会員同士の知り合う場「紙面のサロン」にするという趣旨で、2012年6月号より執筆者の顔写真が掲載されるようになりました。また、新企画としてベテランの会員の方に過去のJIAでの活動や苦労話、ご自身の作品を語っていただく「JIAと私」のページを11月号から立ち上げます。

「ARCHITECT」が会員の意見表明の場「文章でのサロン」になっていけば会員同士の理解が進み、連帯が生まれ、これからのJIAの進む道が見えてくるのではないのでしょうか？ そのためにも皆さんの文章を今後も募集していきます。ご協力をお願いいたします。

2. 東日本大震災を会員に伝え続ける「東北からのメッセージ」と共に東海地方で今から建築家としてできることを探る「減災防災企画」を検討しています。これも11月号から始める予定です。名古屋大学減災連携研究センターの多方面にわたる研究者の方に、建築家にできることを広い視野で書いていただきます。建築家が社会に活動の輪を広げていく第一歩になればと思います。

以前からの記事に加えて会員同士の交流を生み出したり、会員の対外向けの新しいチャレンジを呼び起こしたりするような企画をしていきたいと思っています。

今後も会報誌「ARCHITECT」が続いて第1000号ぐらいを迎えるとなると、東海地方の建築家の歴史的資料になるのではないのでしょうか。皆さん、歴史に名を残そうではありませんか。

公益社団法人の「担い手」、 「ARCHITECT」を次へ繋ぐ



神谷 勇雄 | 設計室ユウアンドアベトウ
2010～2011年度 委員長

「ARCHITECT」300号発刊おめでとうございます。私がブリテン編集長として受け持った期間は24カ月ですが、先輩の方々が積み重ねてきた道のりの妻さを痛感いたしました。

ブリテン委員長を拝命したときには、会員の皆様は驚かれたことでしょうか。なにより私自身がいちばん驚きました。しかし話に乗ってみるのもありなのかな？とも思いつつ…また隠れた才能があるかもしれないと、自分を鼓舞しながら受けさせていただきました。

しかしそんな才能などなく、毎月の編集会議においても先輩方の力をお借りしながら紙面を埋めていくことは、委員として参加しているときには傍観者でよかったのですが、その任に就くと変な気合のようなものも働き、空回りが多くありました。その時点で、私の役目は歴史ある「ARCHITECT」を若い方に繋げることだと感じて、気が少し楽になりました。

段取りの手順は自分なりのルールを決め、シリーズの選択はかなり以前から決めておかないと難しい、執筆者の方にお会いして確かめる、などを次期委員長に伝えるべく書き留めておきました。

私が委員長の頃は公益社団法人の議論が盛り上がっている時期でもありましたので、紙面が埋まらないときなどは、支部長や地域会長をお願いをして執筆していただきました。委員の方々、建築ジャーナル、いろいろなお力をお借りし、また助けられ、2年の任期を終えることができました。うまく繋がったかどうかは分かりませんが…。

最後に私が秘かに思い描いていたことがあります。外部にJIAの認知を高めることです。組織としてのJIAは、内なるベクトルは非常に大きいのですが、外に発信する能力（住宅研究会や保存研究会などは別として）が長けているとは思われません。公益社団法人となった現在、その担い手として「ARCHITECT」の必要性が高まってくると思われれます。

現委員長の吉元氏は、編集長の能力も持ち、外部発信を心がけています。ひょっとしたら、私が委員長として役に立ったことは、吉元氏を委員長に推薦したことですね。

議論や本音の掘り起こしも 機関誌の役割

生津 康広 | 生津建築設計室アーキハウス
2008～2009年度 委員長



2008～09年度の委員長をさせていただきました。歴代委員長が積み上げられてこられた編集方針を踏襲しながら、その時々々の活動やイベントのレポート報告を軸に、委員の皆様のご意見をいただきながら編集をまいりました。「ARCHITECT」発行の目的は東海支部の活動を会員の皆様にお伝えすることと、それらの活動の記録することにあります。根本的には機関誌を通じて会員同士の交流を活性化することが最大の使命と考えおりました。

そのような気持ちで編集委員会を運営させていただいた折、三重地域会から「アーキテクト“みえ”」が発行されました。そこに特集された「会員のとっておき」には三重地域会会員それぞれが知る風景、建物と食の情報が色とりどりに掲載されていました。一つの観光ガイドとしてもとらえることができますが、そこには建築家もつユニークな切り口があり、その情報自体が大変読者の興味を促す内容であったのと同時に、記事を寄せた会員個人への興味と親近感がわきました。大変優れた企画であり、今「ARCHITECT」に掲載されている「東海とっておきガイド」はこの企画を東海地域に拡大して編集させていただいたものなのです。この9月号で58回を重ねました。会員同士の交流を促すコミュニティーペーパーとして、これからも回を重ねてもらいたい企画です。

また、この期間には東海支部設計競技が25回の節目を迎え、公益社団法人化移行の議論が始まり、その時々々の話題に合わせて座談会やインタビューを企画しました。レポート掲載ばかりではなく、議論による意見や本音の掘り起こしも、この機関誌の役割とします。

全国的にも高い評価をいただいている「ARCHITECT」は先輩編集委員の皆様のご努力によりルールが敷かれ、現委員の皆様が駆動機となって毎回充実した内容で発行を継続しています。また、会員の皆様が協力的に文章を寄せていただいていることも大きな力で、支部会員全体でこの機関誌を支えていることが感じられます。これからも支部情報を主体として、本部や他地域の活動情報とともに会員相互の交流を促進する機関誌として、ますますの充実を期待しています。

現在も継続 「会員のステージ」を開始

田中 英彦 | 連空間都市設計事務所・
2006～2007年度 委員長



300号の発刊、おめでとうございます。

私の任期は、2006年春～2008年(214号～237号)の6月号まで、久しぶりに本棚から、編集責任者を担当した「ARCHITECT」2006年7月号～2008年6月号までに目を通すことにした。CPD単位申請をするため、全部の発刊号の目次の執筆者名の横にそれぞれの会員番号をメモしてあった。毎号二十数名の会員が執筆されていて、申請が終わるとこの号は終了、と安堵した。そしてこの人数はすごいことではないかと、何気なく目を通していた頃とは「ARCHITECT」への思いが全く変わった。

特に印象に残っている号は、①多くの会員に親しまれ身近に感じられる機関誌を目指し、より会員の参加を促そうと、JIA以外にも活発に活動する会員が執筆する「会員のステージ」を企画、2006年7月号に「新企画、投稿大募集!」とし、手始めにブリテン委員に投稿してもらい、掲載した。期待したほど投稿がなく自分が書く破目になり、2006年11月号に「文明崩壊は森林破壊～、エジプトを旅して」を掲載。以降、「会員のステージ」は現在も継続している。

②2008年3月号は20周年記念号で、構成で議論したり、執筆依頼したことが思い出される。東海支部の活動の概要が1997年第109号の10周年記念発刊号にまとめられたものに引き続き、その後の10年の活動を当時の愛知地域会会長にまとめていただいた。その項目の多さに、どうページに収めるのかガイドラインに頭を悩ませた。支部(各地域会)の活動でさえこれほど多種多様あり、全国となるとその数や量は計り知れない。

これほど同業者が合同で企画・活動しているのにJIAの認知がなぜ広がらないか? JIAの目的第3条、「建築家の職能理念に基づいて～公共の福祉の増進」を読みながら何かずれていないかとジレンマを抱えていた。構造計算偽装事件以来2007年6月に、改正建築基準法が施行され、それにももの申す記事を掲載したり、当時は(も)財政難とネットの普及から、ウェブ発信をという声が聞かれ議論もした。私としては、ペーパーでの発信を強く望んでいた。今回の執筆でも過去の号を簡単に見られて、その利便さは実感している。継続は力なりで、いつまでも「ARCHITECT」が発刊されることを願う。

が、このペースで行くと86歳で、600号達成。

残 暑 お 見 舞 い

<p>(株) 石 井 建 築 事 務 所</p> <p>代表取締役会長 増澤信一郎 静岡県熱海市田原本町 3-1 熱海魚熊ビル 2 階 TEL 0557-82-4171 FAX 0557-82-4174</p>	<p>尾林建築構造設計事務所</p> <p>尾林 孝雄 静岡県葵区瀬名 7-11-20 TEL 054-264-9752 FAX 054-264-8017</p>	<p>企業組合 針谷建築事務所</p> <p>代表理事 鳥居 久保 静岡市駿河区小黒 3-6-9 TEL 054-281-1155 FAX 054-282-5502</p>
<p>アール・アンド・エス設計工房</p> <p>所長 谷村 茂 名古屋市千種区猫洞通 4-30 安田ビル 3F TEL 052-782-3452 FAX 052-782-9941</p>	<p>(株) 石 本 建 築 事 務 所 名古屋支所</p> <p>取締役支所長 植野 収 名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル TEL 052-263-1821 FAX 052-264-1990</p>	<p>(株)伊藤建築設計事務所</p> <p>代表取締役会長 森口雅文 代表取締役社長 小田義彦 名古屋市中区丸の内 1-15-15 桜通ビル TEL 052-222-8611 FAX 052-222-1971</p>
<p>(株) 上 野 山 都 市 設 計</p> <p>代表取締役 上野山 進 名古屋市中区新栄 2-1-9 雲竜ビル 1105 号 TEL 052-241-2201 FAX 052-209-9344</p>	<p>(株) 浦 野 設 計</p> <p>取 締 役 会 長 浦野三男 代表取締役社長 浦野廣高 名古屋市中区西八筋町 90 TEL 052-503-1211 FAX 052-503-1212</p>	<p>久保田英之建築研究所</p> <p>久保田 英之 名古屋市中区東大曾根町 29-11 共栄ビル 5C TEL 052-979-0755 FAX 052-979-0756</p>
<p>(株) 黒 川 建 築 事 務 所</p> <p>代表取締役 黒川喜洋彦 名古屋市中区鶴舞 2-10-5 TEL 052-882-0281 FAX 052-871-1884</p>	<p>(株)黒野建築設計事務所</p> <p>代表取締役 坂田孝之 名古屋市中区緑区鳴海町字北浦 29 TEL 052-892-1711 FAX 052-892-8957</p>	<p>(資) 三共建築設計事務所</p> <p>服部 滋 名古屋市中区伊勢山 1-1-1 伊勢山ビル 4A TEL 052-321-9591 FAX 052-321-9594</p>
<p>(株) 三 和 建 築 事 務 所</p> <p>取締役社長 見寺昭彦 名古屋市中区港栄 4-5-5 TEL 052-661-2211 FAX 052-661-2247</p>	<p>(株) 田 中 綜 合 設 計</p> <p>代表取締役 佐藤東亜男 名古屋市中区丸の内 1-8-39 三信ビル TEL 052-211-4035 FAX 052-201-9285</p>	<p>(株) 玉 井 設 計</p> <p>代表取締役 玉井 光洋 安城市住吉町 1-2-4 TEL 0566-97-8601 FAX 0566-97-9689</p>
<p>(株)地域計画建築研究所 名古屋事務所</p> <p>取締役中部担当 尾関 利勝 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F TEL 052-202-1411 FAX 052-220-3760</p>	<p>(株) 中 建 設 計</p> <p>代表取締役社長 石田 壽 名古屋市中区栄 2-2-12 NUP 伏見ビル TEL 052-222-7850 FAX 052-222-7856</p>	<p>中 日 設 計 (株)</p> <p>取締役社長 清谷英広 名古屋市中区筒井 2-10-45 TEL 052-937-6711 FAX 052-937-6881</p>

申し上げます

(静岡・愛知・岐阜・三重地域会 五十音順)

<p>(株) 東畑建築事務所 名古屋事務所 代表取締役社長 香西喜八郎 執行役員名古屋事務所長 西村 隆男 名古屋市中村区太閤 3-1-18 名古屋 KS ビル TEL 052-459-3621 FAX 052-459-3623</p>	<p>(株) 中建築設計事務所 取締役会長 森川 礼 代表取締役 廣瀬高保 名古屋市中区新栄 1-27-27 TEL 052-262-4411 FAX 052-262-4414</p>	<p>(株) 錦建築設計 代表取締役 栢本良三 名古屋市中区栄 2-1-12 ダイアパレス伏見 301-B TEL 052-232-3911 FAX 052-232-3912</p>
<p>(株) ヤスウラ設計 代表取締役 水野豊秋 名古屋市中区新栄 2-35-6 TEL 052-241-7211 FAX 052-241-7333</p>	<p>(有) 矢田義典設計室 代表取締役 矢田義典 名古屋市長東区社台 1-187 TEL 052-771-2592 FAX 052-771-2617</p>	<p>(株) ワーク・キューブ 桑原雅明 吉元 学 平野恵津泰 名古屋市昭和区福江 1-7-2 TEL 052-872-0632 FAX 052-872-0633</p>
<p>(株) 藤井設計 代表取締役 藤井孝一 岐阜県各務原市那加前門町 3-83 TEL 058-383-9516 FAX 058-383-9519</p>	<p>(有) Meet's 設計工房 代表取締役 長尾英樹 岐阜県各務原市那加前洞新町 2-114 TEL 058-371-7528 FAX 058-371-8658</p>	<p>(株) 上野建築研究所 代表取締役 松本正博 三重県伊賀市平野見能 330-22 TEL 0595-23-6272 FAX 0595-23-6273</p>
<p>清水設計事務所 代表 清水一男 津市栄町 1-803 TEL 059-227-1854 FAX 059-227-2268</p>	<p>shu 建築設計事務所 中西 修一 三重県多気郡明和町明星 1754-3 TEL 0596-52-6400 FAX 0596-52-6439</p>	<p>(株) 中村建築設計事務所 代表取締役 中村 久 三重県員弁郡東員町北大社 1325-9 TEL 0594-76-2102 FAX 0594-76-8717</p>

Bulletin Board

プロフェッショナルセミナー愛知 2013

「設備」シーズン 1

— 建築家実務講座 —

CPD 各回2単位 (予定)

- 日時 2013年10月3日(木)ほか(右記) 18:30~20:30
- 場所 総合資格学院名古屋校 講義室
(名古屋市中区錦1-2-22 TEL 052-202-1751)
- 講師 一般社団法人愛知県設備設計監理協会 (AEA) より選任された正会員 (右記)
- 参加費 (各回受講) 会員、一般 1,000円 学生 無料
(全回受講) 会員、一般 3,000円 学生 無料
テキスト「設備入門」: 1,500円 (事前申込み) ※全回受講で一括支払いの方 (学生除く) にはテキストは無料。

- 定員 80名
- 問合せ・申し込み

JIA 東海支部事務局 (TEL 052-263-4636 FAX 052-251-8495)

<第1回> 10/3(木)

「総合的なデザインのための電気設備計画・設計概論」

村上正継 (株)MURA 設備設計事務所・佐橋政人 (株)明和技術管理事務所

<第2回> 10/17(木)

「総合的なデザインのための給排水設備計画・設計概論」

近藤幸成 ((企)建築環境システム)・岡田圭二 (株)環境設備計画

<第3回> 11/7(木)

「総合的なデザインのための空調換気設備計画・設計概論」

植田亮 (株)ミューパートナーズ・伊藤弘正 (株)建築設備計画

「善の巡環」が活動の根源

法人協力会通信®

<愛知>

岩田 兼由 | YKK AP(株)中部支社 副支社長



当社の企業活動の根底には、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という創業者である吉田忠雄の「善の巡環」の精神があります。事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方を、事業活動の基本として、当社の企業精神としています。

YKK APは、社名にAP= Architectural Productsという言葉を用いております。この言葉には、建築の根底にあるアートとテクノロジーの要素からなる工業製品という意味が込められております。

近年、人の営みを包み込む住まいやビルなど建物は社会の資産でもあり、私たちの文化のひとつでもあり、そして地球環境の一部であるという考え方から、よりエネルギー消費を少なくし、通年を快適に過ごせる空間へと創り方が変化してまいりました。このような背景から、建物への熱の流出入の割合が高く、空間の性能や快適性を左右する「窓」に、注目が集まっています。当社は、窓事業を通じて新しい窓の在り方を追求し、窓のトプランナーとして、さまざまな機能、性能、デザインの商品づくりと、生活者にとっての付加価値にこだわってまいります。

窓から空間が変わり建築が変わりま

す。また、地域ごとの特性・ライフスタイルから生まれた窓があります。まさに、「窓は文明であり文化」です。今後とも当社は、快適な住空間を創造する「窓」や美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、建築用プロダクトを通して、時代にふさわしい事業価値を創造し、「品質にこだわり続けるメーカー」として皆様とともにより豊かな未来に参加してまいります。

●YKK AP(株)中部支社

〒460-0008 名古屋市中区栄2-11-32

TEL 052-212-4401 FAX 052-212-4168

編集後記

●「保存情報」に塚本隆典さんの記事で、旧糟谷邸が掲載されています。私の住んでいる吉良町にあるのですが、大学の研究室でその存在を改めて知りました。私の在籍していた志水正弘研究室で、かつて旧糟谷邸の改修に携わった経緯があり、京都から宗匠をお迎えして茶会を催したお話を志水先生から聞かせていただいた記憶があります。以前は入館無料だったこともあり、図書館に立ち寄るついでに旧糟谷邸を散策し、素敵な庭で時の流れを忘れて時間を過ごさせてくださいました。あいにく現在は有料となっていますが、すぐ近くにある国宝金蓮寺弥陀堂（無料）とあわせて観られると見応えがあると思います。

現代の建築も旧糟谷邸や金蓮寺弥陀堂も、時代こそ違えども、建築には変わりありません。モノとしての存在感・建築的配慮・

仕事の質・それをつくりあげている先人たちの美意識、そして知恵などを、実際に自分自身の眼で観て感じることが大切な気がしています。（牧 秀明）

●第300号発刊記念の歴代委員長の言葉にあるように、本誌が歴史的価値を有する資料となっていくのは間違いない。地域の建築家たちがほぼ手づくりのかたちで紡いできた機関誌であるからだ。紙媒体での発行を問題視する声も多々ある中での継続の力である。自分自身、永年大学の計算機センターに蓄積していた業績リストが退職時に抹消されることを、うかつにも失念していた、ダウンロードしておけば良かったと悔やんでも後の祭り、高度情報社会の落とし穴である。紙とデジタル媒体など複数保管が肝要であろう。

さて前号に引き続き「卒業設計」関連の記事が掲載されている。脱建築を模索している若い人材たちの言には、頭が固くなりつつある我々の目を覚まさせてくれる力があ

る。またどの記事も建築そのものよりも、環境や素材や風景、住まい手や住民の活動と専門家の立ち位置を論じているものが多い。公共のために何ができるかを考え、何ができる団体かをアピールするべき時代が到来しつつあるように思う。（谷口 元）

ARCHITECT

第300号

発行日 2013.9.1（毎月1回発行）

定価 380円

発行責任者 鳥居久保

編集責任者 吉元 学

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部

名古屋市中区栄 1-13-35

CSC HISAYA BLD.

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http://www.jia-tokai.org/